

安全データシート(SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品名 : エステローラ F スプレー
製品コード : 017219(018503)
会社名 : 日清オイリオグループ株式会社
住所 : 神奈川県横浜市磯子区新森町1番地
担当部門 : ファインケミカル事業部
電話番号 : 045-757-5433
FAX 番号 : 045-757-5444

2. 危険有害性の要約

重要な危険有害性及び影響

物理的及び化学的危険性 : 内容液は可燃性液体(消防法等;指定可燃物 可燃性液体類)
可燃性ガスが入っており、引火及び高温による内圧上昇により破裂
の恐れがある。

健康有害性 : 液化石油ガス以外(内容液)は食用にも適し、有害性は認められな
い。高濃度の液化石油ガスを吸引すると弱い麻酔性のため一時的
に神経系の機能低下を生じる恐れがある。また、液化ガスが皮膚に
触れると凍傷を生じる恐れがある。

環境有害性 : データなし

GHS 分類

物理化学的危険性

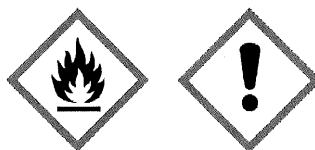
可燃性・引火性エアゾール : 区分 1

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 分類できない
急性毒性(経皮) : 分類できない
急性毒性(吸入:ガス) : 分類できない
特定標的臓器・全身毒性
(単回ばく露) : 区分 3(麻酔作用、気道刺激性)

記載のないものは分類対象外または分類できない。

絵表示又はシンボル



注意喚起語	: 危険
危険有害性情報	: 極めて可燃性・引火性の高いガス 高压容器: 熱すると破裂の恐れ 眠気又はめまいのおそれ
注意書き	: 【安全対策】 <ul style="list-style-type: none"> ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。 ・屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 ・ガス/スプレーの吸入を避けること。 ・取扱い後はよく手を洗うこと。 【応急処置】 <ul style="list-style-type: none"> ・火災の場合には適切な消火方法をとること。 ・吸入した場合: 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ・飲み込んだ場合: 無理して吐かせないこと。 ・眼に入った場合: 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。 ・皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。 ・飲み込んだ場合: 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。 【保管】 <ul style="list-style-type: none"> ・日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。 ・高温になる場所は避けて保管すること。 【廃棄】 内容物や容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質、混合物の区分	: 混合物
化学名	: (1) 食用油脂 (2) 酸化防止剤(トコフェロール) (3) 噴射ガス(LPガス)

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲(含有量)
食用油脂	: (1) 75～85質量%
酸化防止剤(トコフェロール)	: (2) 1質量%以下
噴射ガス(LPガス)	: (3) 15～25重量%

CAS 番号:	(1) 食用油脂 : 非公開 (2) 酸化防止剤 : 非公開 (3) 噴射ガス : 74-98-6(プロパン)、106-97-8(n-ブタン)、75-28-5(イソブタン)
---------	--

官報公示整理番号(化審法・安衛法):	(1) 食用油脂 : 非公開 (2) 酸化防止剤 : 非公開 (3) 噴射ガス : (2)-3(プロパン)、(2)-4(ブタン)
--------------------	--

4. 応急措置

- 吸入した場合 : ガス等を吸引した場合は新鮮な空気の中で安静保温し、専門医の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 触れた部分を拭き取り石鹼水で洗浄する。また、大量のガスが付着した場合、凍傷の恐れがあるので直ちに大量の水又は温水で洗浄する。
- 眼に入った場合 : 異物感を感じなくなるまで直ちに清浄な水で洗眼し、刺激感が残るようであれば眼科医の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 内容液は食用なので問題ないが多量に飲み込んだ場合、下痢を起こす事があるので必要な場合は医師の診断を受ける。ガスを含んだものを飲み込んだ場合は水で口をすすぎ、多量に飲み込んだ場合は可能であれば吐き出し、症状に応じて医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 乾燥砂、消火器(粉末、炭酸ガス、泡)
- 使ってはならない消火剤 : 水をかけると火災を拡大することがある。
- 特有の危険有害性 : 火災時には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特有の消火方法 : ・初期の火災には、消火器(粉末、炭酸ガス、泡)、乾燥砂などを用い消火する。
・大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
・延焼の恐れのないよう、周辺設備等に散水して冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業は風上から行う。保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏出時の処理を行う際には、保護眼鏡、手袋、保護衣等を着用する。
付着や摂取による人体への毒性はない。転倒などを防ぐため、漏出場所への立ち入りには注意が必要である。
漏れ発生時には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。
- 環境に対する注意事項 : 本製品を含む排水の公共水域への排出又は地下浸透を防止するため、こぼれた床面などを水で洗い流してはならない。
- 封じ込め・浄化の方法及び機材 : 少量の場合は紙、布等で拭き取る。
多量の場合は火気を遠ざける。パーライト、セルロース等でその流れを止め、シャベル等で汲み取り、容器に移した後可能な限りぬぐい取る。水上に流出した製品はポリプロピレン製吸着剤、紙、布等を広げてかぶせ、吸着させて回収する。
回収物は廃棄上の注意に従って処理をする。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : ・眼、皮膚及び衣服に触れないように保護具を着用して作業する。
 ・高温物、スパーク、火気の使用を禁止し、静電気対策を確実に行う。
- 安全取扱い注意事項 : ・直火の近く、ストーブ等の熱源の近くでスプレーはしない。
 ・熱した機器やオープンの中へ直接スプレーしない。
 ・直接吸い込んだり、人に向けてスプレーしない。
 ・小児の手の届かない所に保管する。
 ・缶をストーブの上や火の近くなど高温になる場所に置かない。
 ・冬期は容器を室温(20℃程度)にもどしてから使用する。
 ・強酸性物質との接触を避ける。
 ・取扱いは換気のよい場所で行う。

保管

- 安全な保管条件 : ・保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類は全て接地する。
 ・高温多湿および過度の空気接触を避け、室内暗所にて密閉保管する。
 ・ボイラー等熱源付近や可燃物の近くに置かない。
 ・その他、消防法の法律に定めるところに従う。
- 容器包装材料 : スチレン系樹脂やゴムに対して膨潤やヒビ割れをおこす場合がある。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

- 日本産業衛生学会 : プロパン 設定されていない。
 ブタン 500ppm
- ACGIH(2007) : TWA 1000ppm (アルカン C1~C4 として)

設備対策

- : 取扱いの場所の近くには高温、発火源となるものが置かれなようにし、全体換気装置を設置する。
 取扱い場所近くに洗眼および身体洗浄のための設備を設け、その位置を明瞭にする。

保護具

- : 保護眼鏡、保護手袋、呼吸用保護具、保護衣等を必要に応じて使用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状	: 食用油脂 20°Cで液状
色	: 食用油脂 無色透明～淡黄色透明
臭い	: 無臭
融点・凝固点	: 食用油脂 凝固点 -10～-15°C
引火点	: 食用油脂 252°C、プロパン -104°C、ブタン -60°C
燃焼範囲(爆発限界)	: プロパン 下限 2.1%—上限 9.5%、ブタン・イソブタン 下限 1.8%— 上限 8.4%
比重	: 食用油脂 0.940～0.950(25°C)
溶解度	: 水に不溶。各種有機溶剤に可溶
自然発火温度	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	: 密閉状態であれば比較的安定性は高く、重合や分解はほとんど起こらない。
危険有害反応可能性	: 酸化性物質と激しく反応
避けるべき条件	: ・燃焼(爆発)範囲内にあって着火源があると、燃焼・爆発するので、その条件を避ける。 ・スチレン系樹脂やゴム(NBRなど)に対して膨潤やヒビ割れをおこす場合がある。 ・高温時に水との接触を避ける。
混触危険物質	: 特に混触危険物質に関する報告は把握していない。
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

急性毒性	: 食用油脂は通常の食用に適するものである。
皮膚腐食性・刺激性	: データなし (食用油脂 ヒトパッチ:陰性)
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 噴射ガス 区分 3(麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: データなし
吸引性呼吸器有害性	: データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 対象外

13. 廃棄上の注意

- ・残余廃棄物は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託するか、少量ずつ適切な焼却炉で焼却する。容器・包装は、産業廃棄物として適切に処分する。
- ・空容器を廃棄の際は、中身を使い切ってから、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜く。

14. 輸送上の注意

国連番号	: 高圧ガス(クラス 2.1)
品名	: 引火性ガス(エアゾール)
国連分類	: UN1950
容器等級	: 該当しない
海洋汚染物質	: ばら積み運送 未査定液体物質 個品運送 該当しない
輸送に関する特別の安全対策及び条件	: 火気厳禁。その他、消防法、船舶安全法、航空法等の法令の定めるところに従う。
一般的注意事項	: 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

高圧ガス保安法	: 適用除外
消防法	: 指定可燃物 可燃性液体類
労働安全衛生法	: 57 条(名称等を表示すべき有害物) ボタン
化審法	: 特定化学物質、監視化学物質には該当しない
海洋汚染防止法	: ばら積み運送 未査定液体物質、 個品運送 該当しない
化学物質管理促進法(PRTR 法)	: 該当しない

16. その他の情報

出典：

- 1) 安全衛生情報センター、製品安全データシート LPG

注意事項：

本データシートは、現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、情報の完全性を保証するものではありません。危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取扱いには充分注意して下さい。また、記載事項は通常の手扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合は、ご使用者の責任において安全対策を実施の上お取扱い願います。